

■ 土木工学の権威

物部 長穂

もののべ ながほ

出身地 大仙市（旧協和町）

1888年（明治21年）～1941年（昭和16年）

旧学位令下で最年少の工学博士。論文「構造物の振動並に其の耐震性に就いて」で学士院恩賜賞。

主著『水理学』は優れた指導書として知られる。重力式ダム of 具体的設計法を提唱するなど、土木工学の発展に寄与した。



年 譜

- 1888年 大仙市（旧協和町）に生まれる。
- 1911年 東京帝国大学工科大学卒業。
鉄道院に入り、難工事の信濃川鉄橋を完成。
- 1914年 内務省土木局に勤務。
- 1920年 工学博士となる。
- 1925年 学士院恩賜賞を受賞。
- 1926年 東京帝国大学教授、内務省土木試験場長。
- 1933年 主著『水理学』を刊行。
- 1941年 東京都で没。53歳。